

大綱心で交通安全！

子どもの交通事故防止について

平成28年中に、県内で発生した中学生以下の子ども関連の交通事故は、発生件数1009件、負傷者326人でした。

子どもは、一つのことには注意が向くと、周囲の状況が目に入らなくなり、危険なことの判断ができなくなる場合があります。

子どもの命を守るのは、大人の責務です。交通事故に巻き込まれないために気を付けるべきことを、子どもに繰り返し、具体的に教えることが大切です。今回は、これらを踏まえ、子どもの交通事故防止のポイントについて紹介します。

・夜間は、目に付きやすい服装や、夜光反射材などを着用する。

■駐車場での事故

運転手が安全確認をしながら、比較的ゆっくり車を動かしていても、子どもが車のミラーの死角に入ることなどで事故に遭うケースがあります。次のことを心掛けましょう。

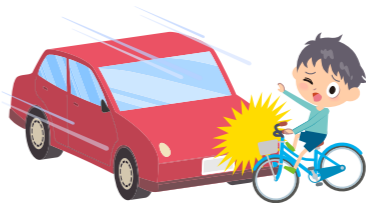
- ・商業施設などの駐車場内では、子どもを一人で歩かせない。手をつなぐ、あるいは抱き上げて移動する。
- ・車に乗るときは子どもを先に乗せ、降りるときは大人が先に降りる。
- ・自宅車庫や駐車場を遊び場にさせない。

■自転車の出合い頭の事故

自転車事故の多くが、交差点での出合い頭の事故です。次のことを教えましょう。

- ・交差点では、一時停止して前後左右の安全を確認する。
- ・見通しが悪い場所では、いつでも止

まれるスピードで走行する。日常的に事故が多い場所では、特に注意して通行する。自転車を定期的に点検し、必ずヘルメットを着用する。



自転車保険の加入と乗車時のヘルメット着用の義務化

県では、昨年10月から、自転車利用者、貸付業者、事業者に対する自転車保険への加入と、中学生以下の子どもの持つ保護者に対する子どもへのヘルメット着用を義務化しました。



交通事故防止のための5つの行動
自転車に乗るときや歩行中の交通事故防止のため、次の5つの行動を教えましょう。

- 1 もしかして(危険予測)
自動車などが来る(動き出す、急に方向を変える)かもしれないという意識を持つ。
- 2 とまる(一時停止)
「止まれ」の標識を意識し、速度をゼロにして完全に止まる。
- 3 みる(安全確認)
前後左右の安全を確認する。
- 4 まつ(安全確保)
心や時間にゆとりを持ち、安全が確保されるまで人や車が通過するのを待つ。
- 5 たしかめる(再確認)
安全に横断・通行ができるかどうか、もう一度よく確かめる。

男女共同参画情報コーナー



～一人一人が幸せを実感できるまちへ～

【編集】＝「とらいあぐる」編集員

【問合せ】＝本庁企画政策部 ひとみらい政策課
ひとみらい政策グループ
☎(23)5111(内線4741)

男女共同参画の視点から見る

「メディア・リテラシー」

私たちは、日々の生活の中でテレビ、新聞、雑誌、インターネットなど、さまざまなメディアに触れています。無数の情報が発信される中で、知らず知らずのうちに情報に流され、誤ったイメージで自分自身を縛り付けていませんか。

今回は、男女共同参画の視点で見ると、「メディア・リテラシー」について紹介いたします。

■メディア・リテラシーとは

メディアからの膨大な情報に対して、これらを用いるのではなく、活用するための次の3つの能力のことです。



男性は上司であり、女性は部下であるというイメージ

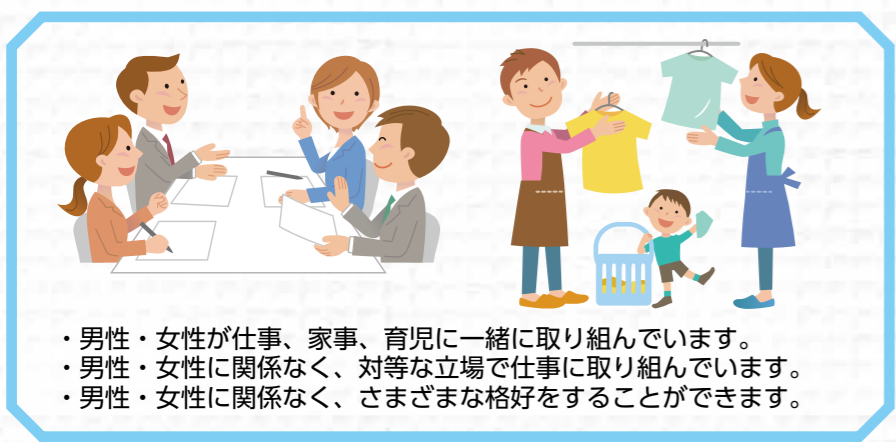
男性は仕事、女性は家事という固定的なイメージ

- ① 情報を収集する能力
 - ② 情報を主体的に読み解く能力
 - ③ 読み解いた情報を自分自身の表現で発信する能力
- 男女の表現について
メディアの中には、次のようなイラストなどの表現もあり、本来の内容とは別に、男女に関する固定的なイメージを与えてしまう可能性があります。

固定的なイメージを与えない表現の一例



男性の服は寒色系、女性の服は暖色系であるというイメージ



- ・男性・女性が仕事、家事、育児と一緒に取り組んでいます。
- ・男性・女性に関係なく、対等な立場で仕事に取り組んでいます。
- ・男性・女性に関係なく、さまざまな格好をすることができます。

このように、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべき」と固定的なイメージを持たれることで、自身の持つ力や個性を発揮しづらくなる可能性もあります。私たちが日頃見聞きするさまざまなニュースや記事、映像などは、膨大な事実の中の切り取られた一部分にしか過ぎません。新聞記事一つを取り上げても、同じニュースであるにも関わらず、取り上げ方や論調が各社ごとに異なっていることに気付かれます。

メディアは、仕事や知識の習得などの情報源として、私たちの生活に欠かせないものです。一方で、メディアから発信されるジェンダー(社会的・文化的に作られた性差)を、私たちは無意識に取り込んでおり、知らず知らずのうちに、こうした価値観や考え方が形成されていきます。

発信者の意図や目的を考えながら、情報を受け取る習慣をなるべく早くうちから身に付けることが大切です。

また、私たちは誰もが、情報の受け手であると同時に、発信者でもあります。情報を正しく読み取り、その情報を正しく発信できるよう、メディアと上手に付き合い、情報を賢く活用しましょう。

